

泥と真珠の6月

松田 妙子

試練の梅雨です。私は子どもの時から「水不足」が怖かったのですが、突如それが暴走。毎日、日が照るたびに憎悪に燃えます。たまに降ってもすぐ晴れるので、少しも安心できません。九州地方が連日、豪雨に見舞われていると聞き、なおさら天が公平でないことへの怒りと不安に苛まれます。それでいて、夜など激しい雨音を1人で聞くのも、身がすくみ上がるほど怖いのです。怖くて怖くて、早くやんでくれと願って、やんだ途端、底なしの渇水への不安にとりつかれるのです。降っても地獄、晴れても地獄。地獄は一定のすみかぞかし。どこまでも満たされることのない私の心こそが、何に渴いているのだろうか？

天気予報が怖いのです。期待するから、はずれるたびに傷つくし、「九州地方がまたも雨」なのを聞かされるたびに、叫び出したくなります。これだって「マスコミの情報に踊らされている」ことの1つなんだ、怖けりや聞かなきやいいだろ、と思っても、都会に暮らしていればどこからか情報は入ってきます。なるほど情報とは、時に暴力でもあるのだな、と思いました。

天気なんか、人間の力では制御できないんだから、それにとられる自分の心の方を制御するべきなんだ。それができないのは、私の心が病気だからだ。過活動で体が疲れ果てていると同様、心も疲れ果ててるんだ。これも親の介護疲れの後遺症だろ、などと分析したところで、少しも楽になりません。お腹が痛い時に、「昨日食べた○○が悪かったんだらう」と分析したって、腹痛が治るわけではないのと同じです。

天気なんかで心もちぎれるような思いをする前に、世の中にはもっと心配すべき事が他に一杯あるだらうが！憲法とか原発と

か・・・いや、憎悪が人間に向かわないだけましか。人を憎むより、太陽を憎む方が、誰も傷つけないですむからな。でも天気とことにとらわれ出すに違いない。いや、天気は毎日変わるんだから、解決することなどあり得なくて、そんなものを標的に定めた私の心の深層に、何かあるんじゃないか？
などとあれこれ考えても、何の慰めにもなりません。不消化な食物が腸をグルグル回って痛みが増すように、堂々巡りの考えは、とらわれた心を循環するだけ。惟蓮さんにももらった真宗のカレンダーの6月の、「煩惱の泥」の文字が目にも痛い。ああ煩惱の泥、煩惱の泥！

ところが、1週間ぶりに雨が降りました。それも強すぎず弱すぎず、1日中しとしと降り続く、私にとってはこれ以上望むべくもないほどのベストな雨。もしかして私のこれまでの苦悩は、この貴重な1日を真珠のように慈しむためにあったのか、と思っただけです。こんな望み通りの雨が降ってくれることなんて、減多にありません。降りすぎたり、降らなすぎたり、落雷したり、苦しめられることが多いのが世の常です。そういう現世に私たちは生きていて、ごくたまに、こんな天からの贈り物のような1日をささがるのか、と思いました。

同時に、人間の小ささを自覚しました。「天気なんかで心もちぎれそうな思いをする」私は、きつと心が病気なんだと思っていたけど、昔の人々にとっては「天気なんか」こそ大事件だったんじゃないでしょうか。現代の、特に都会の人間は、人工的な環境に慣れすぎてしまっただけで、鈍くなっているだけで。空模様が生死を分けるほどの大事件だと慣れることは、むしろ生物としての本来のあり方に沿ったものだったのかも。「異常気象」や「地球温暖化」という言葉に耳慣れてしまった私は、人間が地球に優しくなれば、地球も人間に優しくなるかのように思っていたけど、それが人間の傲慢だったでしょう。なぜならそれも、人間の都合

の良いように自然を操ろうとすることの1つに過ぎないからです。「環境破壊」も「保護」も、同じコインの裏表。自然はそんな小さなものじゃないはずです。

この雨もいつかは止む。今豊かに流れている川もいつかは涸れる。でも今はそんな先のことは考えず、このひそやかな雨の音を聞いていよう。と思える自分はまだ大丈夫だ。まだ回復力が残っている。満ちたものは次には欠ける。欠けて欠けて欠けていって、また満ちてくる。そういうものだ。そういうものだなあ。銀色の雨。真珠の雨。こんな日もある。こんな日もあるから、私たちは生きてゆける。

……と、その日の日記に書きました。あれから1週間。相変わらず九州に停滞する前線は凶暴で、わが地方の上空の雲は軟弱で、私の心はヒリヒリしてばかり。でも「天気なんか」で不幸になる私は、「天気なんか」で幸せになれることもわかったし、天はそう簡単には幸せをくれないこともわかりました。日本の文化は晴れる方を良しとしていることは、「心が晴れる」「疑いが晴れる」「太陽のように明るい」といった言葉が、肯定的な意味に使われることからわかります。でも今の私は砂漠民のように、雨に焦がれています。いつもいつも何かに飢え、渴いている私だけど欠けてない満ちることもできないんだから。これでいいのかなあ・・・？

2010.7.11.9:30PM



持続可能な未来を求めて

私たちにはどんな「シフト」が可能なのだろうか？

フリートーク(しゃべり場)へのご案内

6月26日の「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会にご参加ご協力ありがとうございました。上映会後には、たくさんアンケートが寄せられ、「知らなかった」「希望が見えた」「何かできることをやっていきたい」等々の熱いメッセージが残されました。上映会当日のトークでは十分に意見交換する時間もなく残念な思いもありました。そこで、「私たちにはどんな(シフト)が可能なのだろうか？」をメインテーマに、映画の感想や疑問やこれからを語り合う集いを持ちたいと思います。

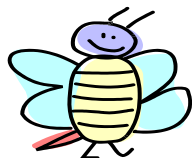
どうぞ、ご参集くださいませ。もちろん、当日映画をご覧になれなかった方も、ご一緒に語り合います。

日時 7月23日(金曜日)

午後6時から9時

場所 姫路イーグレ 4階和室

参加費無料



アドバイザーとして、最近祝島を訪ねられた長田浩昭さん(僧侶 原子力行政を問い直す宗教者の会事務局)をお迎えします。

主催 ミツバチの羽音と地球の回転上映実行委員会

事務局 ピースチェーンはりま

079(286)8551 (山下)